

Masterpieces from Vienna ウィーン、至宝の物語。

数世紀にわたり、ヨーロッパの歴史の表舞台で脚光を浴びてきたハプスブルク家。同家はまた、絵画や工芸品、武具など、世界屈指のコレクションを築いたことでも知られます。その重要な部分を所蔵する美術館の一つが、彼らによって建造され、1891年に開館したウィーン美術史美術館です。オーストリアと日本の国交樹立150周年を記念する本展は、同館の協力のもと、絵画を中心に、版画、工芸品、タペストリー、武具など約100点から構成されます。個性的な同家の人々を紹介しつつ、コレクションの歴史を軸として、時代ごとにその特色やあり方を浮き彫りにする企画です。



観覧料		
	当日	前売・団体
一般	1,700円	1,400円
大学生	1,100円	1,000円
高校生	700円	600円

*団体料金は20名以上。*中学生以下は無料。*心身に障害のある方および付添者1名は無料(入館の際に障害者手帳をご提示ください) *前売券は2019年8月10日(土)～10月18日(金)まで販売。ただし、国立西洋美術館では開館日のみ、10月17日(木)までの販売。以降は当日料金。*「図録・音声ガイドつき」「グッズつき」など特典付き前売券も販売します。詳細は展覧会HPをご覧ください。

音声ガイド

音声ガイドナレーターに女優の花總まりと声優の梅原裕一郎が就任! 名画に隠されたハプスブルク家の君主たちと芸術家のエピソード、プリンセスたちの知られざる物語をたっぷりご紹介いたします。料金: 550円/台



左/花總まり 宝塚在団中は100年に1人の娘役と称され、現在は女優として数多く主演舞台で活躍中。本年オーストリア共和国より叙勲した。
右/梅原裕一郎 声優。アニメやゲーム等の吹き替えのほか、ナレーション、朗読劇等多方面に活動の場を広げている。

1 ディエゴ・ベラスケス《宿屋のふたりの男と少女》1618-1619年頃、ブダペスト国立西洋美術館所蔵 Museum of Fine Arts, Budapest 2 ダーフィット・テニールス(子)《村の緑日》1647年頃 3 パル・ロメウス・スプランゲル《オデュッセウスとキルク》1580-85年頃 4 ヴェロナーゼ《ホフェルネスの首を持つユディット》1580年頃 5 ヤン・ブリューゲル(父)およびハンス・ロッテンハマー《エジプト逃避途上の休息》1595年頃 6 ティントレット《甲冑をつけた男性の肖像》1555年頃 *記載のないものはすべてウィーン美術史美術館蔵 Kunsthistorisches Museum, Wien
[展覧会HP] habsburg2019.jp [@habs2019](https://twitter.com/habs2019) [@habs.2019](https://www.instagram.com/habs.2019) [国立西洋美術館HP] nmwa.go.jp

講演会

1. イタリア美術コレクターとしてのハプスブルク家

[日時] 2019年10月19日(土) 14:00～15:30
[講師] フランチェスカ・デル・トッレニョイヒ
(ウィーン美術史美術館 イタリア・ルネサンス美術担当学芸員) ※同時通訳付き

2. 世界支配者はなぜ美術品を蒐集したのか ——芸術コレクションにみるハプスブルク家の横顔

[日時] 2019年11月30日(土) 14:00～15:30
[講師] 山之内克子(神戸市外国語大学 教授)

3. ハプスブルク家のコレクション ——神聖ローマ皇帝ルドルフ2世を中心に

[日時] 2020年1月11日(土) 14:00～15:30
[講師] 中田明日佳(国立西洋美術館 主任研究員)

[会場] 国立西洋美術館講堂(地下2階)
[定員] 各回先着130名(聴講無料。ただし聴講券と本展の観覧券(半券可)が必要です。)
[参加方法] 当日12:00より、館内インフォメーションにて、本展の観覧券をお持ちの方お一人につき一枚聴講券を配付します。会場へは開演の30分前からご入場いただけます(整理番号順)。
*講演会のタイトル、内容等に変更となる場合があります。

スライドトーク

展覧会のみどころや主な作品について、スライドを使って解説します。

[日時] 2019年11月8日(金)、12月6日(金)、
2020年1月17日(金)
各回18:00～(約30分)
[解説] 今野佳苗(本展覧会アシスタント)
[会場] 国立西洋美術館講堂(地下2階)
[定員] 各回先着130名(聴講無料。ただし本展の観覧券(半券可)が必要です。)

[参加方法] 直接講堂にお越しください(開場時間は各日とも開演の30分前)。

アクセス



国立西洋美術館 〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
JR上野駅下車 公園口より徒歩1分
京成電鉄京成上野駅下車 徒歩7分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅下車 徒歩8分
*当館に駐車場はありませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。



日本・オーストリア友好150周年記念

ハプスブルク展

600年にわたる帝国コレクションの歴史

2019 10.19 SAT — 2020 1.26 SUN

国立西洋美術館 The National Museum of Western Art [東京・上野公園]
開館時間/9:30～17:30[金・土曜日は20:00まで。ただし11月30日(土)は17:30まで] *入館は閉館の30分前まで 休館日/毎週月曜日[ただし11月4日(月・休)、1月13日(月・祝)は開館]、11月5日(火)、12月28日(土)～1月1日(水・祝)、1月14日(火) 主催/国立西洋美術館、ウィーン美術史美術館、TBS、朝日新聞社 共催/日本経済新聞社 後援/オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム、BS-TBS 特別協賛/大和ハウス工業株式会社 協賛/三井物産、大日本印刷、みずほ銀行 特別協力/びあ、TBSラジオ 協力/ANA、ルフトハンザカーゴ AG、西洋美術振興財団 お問い合わせ/03-5777-8600 (ハローダイヤル)

驚異の一族、驚異の蒐集。
生まれながらの許嫁——マールガリータ王女

8 Stories of the Habsburg Dynasty

歴史を彩った、王家の8人の物語。

生まれるがらの許嫁

ヨーロッパの中心に君臨し続けたハプスブルク家は、ライン川上流域の豪族として頭角を現し、13世紀末にオーストリアに進出。同地を拠点に勢力を拡大し、広大な帝国を築き上げた。15世紀以降は、神聖ローマ帝国の皇帝位を代々世襲。ナポレオン戦争による神聖ローマ帝国解体後は、後継のオーストリア帝国(1867年にオーストリア＝ハンガリー二重帝国に改組)の皇帝となった。第一次世界大戦後に帝国が終焉を迎えるまで、数世紀にわたり広い領土と多様な民族を統治したヨーロッパ随一の名門。



中世最後の騎士

マクシミリアン1世

神聖ローマ帝国皇帝

“中世最後の騎士”。武勇に秀で、生涯に27の戦を戦った。語学に才を発揮し、芸術の愛好家でもあった。

左ノベルンハルト・シュトリールとその工房、あるいは工房作《ローマ王としてのマクシミリアン1世》1507-08年頃
右ノロレンツ・ヘルムシュミット《神聖ローマ皇帝マクシミリアン1世の甲冑》アウクスブルク、1492年頃



King Philip IV of Spain (1605-1665)



フェリペ4世

スペイン国王

若くして即位、文化や芸術に情熱を注ぎ、若きベラスケスを宮廷画家に採用し厚遇したことで知られる。

左ノディエゴ・ベラスケス《スペイン国王フェリペ4世の肖像》1631-32年
右ノディエゴ・ベラスケス《青いドレスの王女マルガリータ・テレサ》1659年

ベラスケスを見出した男

十六人の母にして唯一無二の“女帝”

マリア・テレジア

神聖ローマ帝国皇妃

天性の政治的手腕で国難を切り抜け、民を導いた“女帝”。当時としては珍しく恋愛結婚したフランツ・シュテファンと16人もの子供をもうけた。

マルティン・ファン・メイテンズ(子)《皇妃マリア・テレジアの肖像》1745-50年頃

Infanta Margarita Teresa (1651-1673)



マルガリータ・テレサ

スペイン王女

幼い頃からウィーンの宮廷に嫁ぐことが決まっていたスペイン王女。この作品は許嫁に彼女の成長ぶりを伝えるべく描かれたもの。

Empress Maria Theresa (1717-1780)



Queen Marie Antoinette (1755-1793)



王妃は愛され、やがて憎まれた

マリー・アントワネット

フランス王妃

母マリア・テレジアの取り決めで、フランス国王ルイ15世の孫ルイ・オーギュスト(後のルイ16世)と政略結婚。フランス革命でギロチンの露と消えた。

上ノマリー・ルイズ・エリザベト・ヴィジェ＝ルブラン《フランス王妃マリー・アントワネットの肖像》1778年
左ノ上から順に、作者不詳《ルイ18世と姪のアンクレム公爵夫人》フランス、1820年頃 作者不詳《ルイ16世とマリー・アントワネットの子供たち、ルイ・シャルルとマリー・テレーズ》フランス、19世紀初頭 作者不詳《ルイ16世のシルエット》フランス、18世紀末以上3点、国立西洋美術館所蔵

Emperor Francis Joseph I (1830-1916)



フランツ・ヨーゼフ1世

オーストリア帝国(1867年以降はオーストリア＝ハンガリー二重帝国) 皇帝

68年間もの長きにわたって在位した“最後の皇帝”。今日のウィーンの街の姿を整備し、ウィーン美術史美術館を建設させた。



ウィーンを愛した“最後の皇帝”

上ノヴィクトール・シュタウファー《オーストリア＝ハンガリー帝国皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の肖像》1916年頃
左ノクロード・ビズアール《フランツ・ヨーゼフ1世のフロック式ピストル》マルセイユ、1857年



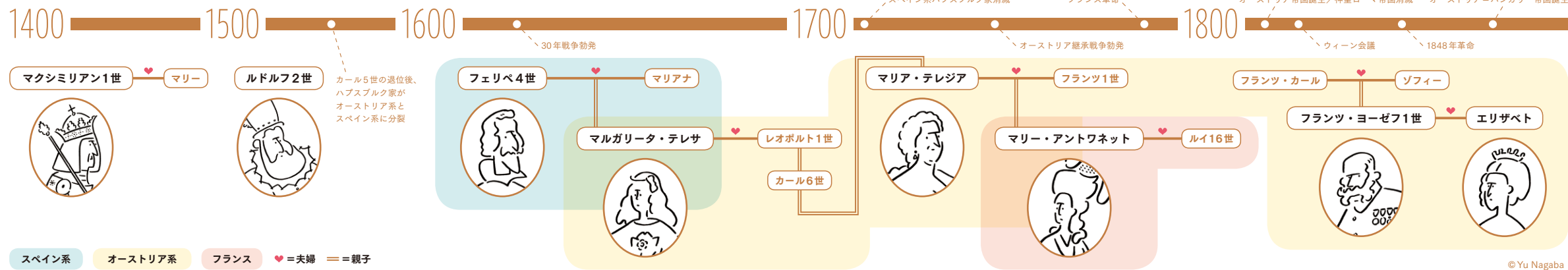
史上最高の変人

ルドルフ2世

神聖ローマ帝国皇帝

統治者としてのセンスは皆無、しかし学問や芸術への造詣の深さは抜きん出ている“変人”。ヨーロッパ史上における稀代の芸術愛好家、コレクター。

左ノヨーゼフ・ハインツ(父)《神聖ローマ皇帝ルドルフ2世の肖像》1592年頃
右ノHDのモノグラミスト《十字架型の日時計》プラハ、1619年



Empress Elisabeth (1837-1898)



さまよえる美女

エリザベト

オーストリア帝国(1867年以降はオーストリア＝ハンガリー二重帝国) 皇妃

美貌を見初められフランツ・ヨーゼフ1世のもとに嫁ぐ

も、ウィーンの宮廷に馴染めず、各地を放浪。身内の不幸にも見舞われ、自身も変死した薄幸の皇妃。愛称「シンシィ」。

ヨーゼフ・ホラチェク《薄い青のドレスの皇妃エリザベト》1858年

肖像画の大きさの違いについて

このチラシでは、8人の肖像画を、それぞれ実寸の約1/18の大ききで掲載しています。